

### < 発散定理・ストークスの定理 >

#### < 発散定理 >

空間の立体  $V$  の表面を  $S$  とする。曲面  $S$  上の単位法線ベクトル  $\mathbf{n}$  は図 1 のように外側に向いているとする。このとき 44 ページより関数  $f_3 = f_3(x, y, z)$  に対して

$$(1) \int_V \frac{\partial f_3}{\partial z} dV = \int_S (0, 0, f_3) \cdot d\mathbf{S}$$

が成立する。同様に関数  $f_2 = f_2(x, y, z)$ ,  $f_1 = f_1(x, y, z)$  に対して,

$$(2) \int_V \frac{\partial f_2}{\partial y} dV = \int_S (0, f_2, 0) \cdot d\mathbf{S}$$

$$(3) \int_V \frac{\partial f_1}{\partial x} dV = \int_S (f_1, 0, 0) \cdot d\mathbf{S}$$

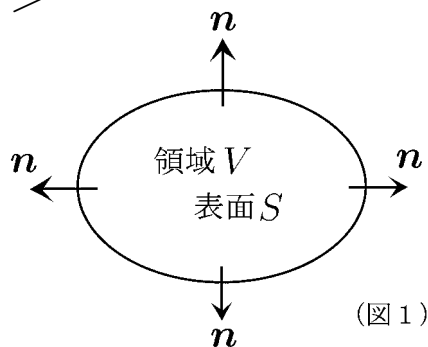
が成立する。ここで  $\mathbf{F} = (f_1, f_2, f_3)$  とすれば (1) + (2) + (3) より

$$\int_V \operatorname{div} \mathbf{F} dV = \int_S \mathbf{F} \cdot d\mathbf{S} \quad (\text{発散定理})$$

が成立する。これをガウスの発散定理という。

例 図 1 のような  $V$  と  $S$  に対し,  $\nabla \cdot (\nabla \times \mathbf{F}) = 0$  より

$$\int_S \operatorname{rot} \mathbf{F} \cdot d\mathbf{S} = \int_V \operatorname{div}(\operatorname{rot} \mathbf{F}) dV = \int_V \nabla \cdot (\nabla \times \mathbf{F}) dV = 0$$



(図 1)

#### < ストークスの定理 >

図 2 のような  $xy$  平面上の領域  $D$  と境界  $C$  に対し, 28 ページより, グリーンの定理は

$$\iint_D \operatorname{rot}(f_1, f_2) dx dy = \int_C (f_1, f_2) \cdot d\mathbf{r} \quad (\text{グリーンの定理})$$

と書かれる。これは以下のように空間の場合に一般化できる。

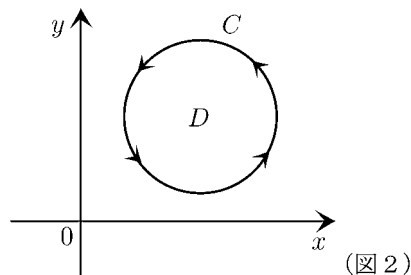
図 3 のような空間の曲面  $S$  の境界線を  $C$  とする。空間のベクトル場  $\mathbf{F} = (f_1, f_2, f_3)$  に対し

$$\int_S \operatorname{rot} \mathbf{F} \cdot d\mathbf{S} = \int_C \mathbf{F} \cdot d\mathbf{r} \quad (\text{ストークスの定理})$$

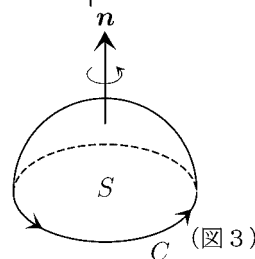
が成立する。これをストークスの定理という。

(注) ストークスの定理の曲面  $S$  (図 3) は例の曲面  $S$  (図 1) の上半分と考える。

問 図 3 のような曲線  $C$  とスカラー場  $\varphi$  に対し,  $\int_C \nabla \varphi \cdot d\mathbf{r}$  の値を求めよ。



(図 2)



(図 3)